

知的障害者の療育・福祉・就労に関するDVD目録

※ 貸し出し希望の整理番号を事務局にご連絡ください。
oka-iku@kirameki-plz.com

事務局連絡先 Tel 086-226-3538 e:mail

1	NHKスペシャル 響きあう父と子		大江健三郎と息子 光の30年			5001-1	父は知的障害の光の誕生直後、広島を訪れ、被爆者の生の尊厳に打たれ共生を決意した。光は今、美しい旋律で音楽を作り多くの人達の心を癒す。息子のことを小説に書き続けた父は締めくくりの小説にとり組む。癒しあう親子の共生の日々と広島への旅を描く。
2	NHKスペシャル 響きあう父と子	広島のソナタ	大江光の音楽と 父の言葉			5001-2	NHK広島放送局 - 2001年・夏「ヒロシマ」特集番組
3	人間ドキュメント	カーネギーに 響け	歓喜の歌			5002	今年5月、ある日本の合唱団がカーネギーホールで「第九」を歌った。平成元年に結成された障害者を中心にした合唱団だ。番組では障害のある娘と喜びを共にする父、ひとり息子の成長を見つめる母、などを中心に第九と共に生きる人々を描く。
4	NHKスペシャル 響きあう父と子	子供・輝けい のち	こころの二人三 脚	自閉症児と 級友たち		5003-1	自閉症児と不登校児がともに学ぶ武蔵野東高等専修学校。自己表現が苦手な自身をもてなかつた子どもたちが戸惑いながらもやがて共感し合い支え合いながら心の交流を深めていく。一年がたって笑顔を取り戻していく生徒たちを見つめる。
5	福祉ネットワー ク	こども相談室	高次脳機能障害 と向き合う	再び学校で 学ぶために	交通事故 障害	5003-2	今月のテーマは「高次脳機能障害と向きあう」。先週まではリハビリの可能性について、見てきました。きょうは「再び学校に戻るために」をテーマに、学校と医療機関が連携をして復学をしたお子さんをご紹介します。
6	福祉ネットワー ク	こども相談室	高次脳機能障害 と向き合う	我が子とと もに歩んで	アトムの会 がめざす もの	5003-3	きょうは「我が子とともに歩んで」と題し、脳に障害を持ったお子さんを持つ親の思い、悩み、問題点、そして、そんな親御さんから社会へのメッセージをお伝えします。

7	福祉ネットワーク	こども相談室	ダウン症児の びやかに育て	赤ちゃんの 育て方		5004-1	<p>お子さんの障害を知ったときの親の気持ちを調査したデータがあります。それによると、「信じられない」「ダウン症という障害がよくわからないので将来に不安を感じた」という気持ちもありますが、一番多かったのは「ショックを感じた」でした。</p> <p>今週は、そのショックからどのように立ち直り、乗り越えていったらいいのか、あるご家族の例を見ていきます。</p>
8	福祉ネットワーク	こども相談室	ダウン症児の びやかに育て	小学生になる 前に		5004-2	<p>母親の佳子さんは、宏暢くんのように大好きな絵本を読んで聞かせています。しゃべるのが苦手な宏暢くん。言葉を無理やり教えるのではなく、遊びの中で覚えてほしいという思いです。おかげで、宏暢くんの話せる言葉はこの半年間でぐんと増えました。</p> <p>最近、着替えも上手になってきた宏暢くん。まだまだ時間はかかりませんが、佳子さんは気長に見守ります。小学校に上がったとき、一人で着替えができるようにと、今のうちから練習です。</p>
9	福祉ネットワーク	こども相談室	ダウン症児の びやかに育て	思春期子ども の自立		5004-3	<p>「宿題をしなさい」と言われた、娘の香穂理さん。しかし、母親である秋江さんの言うことを聞こうとしません。ついには、母、秋江さんを部屋から追い出してしまいました。</p>
10	福祉ネットワーク	こども相談室	ダウン症児の びやかに育て	芸人一家 に生まれて		5004-4	<p>ダウン症で心臓病を抱えている。</p> <p>父(廣美さん)津軽三味線奏者で民謡歌手。母(美恵子さん)は舞踏家。幼い頃から芸に親しみ、3歳で初舞台。</p> <p>5回もの心臓手術を乗り越え、現在、家族そろって各地で講演を続けている。</p>

11	人間ゆうゆう	シリーズ 知的障害者の新時代	自立のための職場探し			5005-1	
12	人間ゆうゆう	シリーズ 知的障害者の新時代	自立をかなえる支援			5005-2	
13	人間ドキュメント	まごころケーキを召し上がれ				5006	一度食べたなら忘れられない味と評判になり、年間1200万円を売り上げるケーキ工房。職人は全員ダウン症などの知的障害を持つ。「同情でなく味で買ってもらおう」を合言葉に、困難を乗り越えて技術を磨く職人達の奮闘を追う。
14	プライム11	はぐくみ合う家族	二人の障害児とともに			5007	高知県に住む専業農家の鍵山さん一家は4世代8人の大家族。3人のうち2人の子に障害があるが、鍵山さん夫婦は祖父母とともに積極的に子育てを楽しんでいる。障害のある妹・弟と心を通わせたいと頑張
15	福祉ネットワーク	はまなすの家族	知的障害者	手探りの子育て日記		5008-1	
16	ウォッチャー	風の歌が聴きたい	ある夫婦の話	聴覚障害者		5008-2	
17	福祉ネットワーク	こども相談室	自力で登れ	母と子の療育キャンプ		5009-1	毎年夏、NHK厚生文化事業団が主催する「母と子の療育キャンプ」。34回目を迎えた今年も、自閉症やダウン症など障害を抱える子ども27人が参加しました。目標は「一人で頑張れる力、集団行動できる力を身に付けること」。

18	福祉ネットワーク	こども相談室	ママと呼ばれた日	自閉症・14年の記録		5009-2	広島市に住む平田雅一くん(14歳)は重度の自閉症児です。母・圭子さんの話しかけにもまったく反応を示しませんでした。 そんな雅一くんが、13歳にして初めて「ママ」と呼ぶようになったのです。きょうは、そんな平田さん親子の14年間の軌跡をたどります。
19	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	めざせ！豆腐職人			5009-3	大豆の味が濃くて、おいしいですね(堀内さん) 今、「とてもおいしい」と評判がよく、売れ行き上々の豆腐です。きょうの「障害者くらし情報」は、知的障害者の皆さんの働く場についてお伝えいたします。
20	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	施設を出て街に暮らす	長野「西駒郷」		5009-4	障害のある皆さんに役立つ情報をお届けする「障害者暮らし情報」。今週は「施設を出て街に暮らす」をテーマにお送りいたします。
21	福祉ネットワーク	こども相談室	自閉症の子とともに	行動を理解する		5010-1	今月のテーマは「自閉症の子とともに」。1週目のきょうは、「行動を理解する」ということで、自閉症という障害についての理解を深めます。
22	福祉ネットワーク	こども相談室	自閉症の子とともに	コミュニケーションの力を育てる		5010-2	今月のテーマは「自閉症の子とともに」。先週の放送では、言葉でのコミュニケーションを取ることが難しいお子さんには、視覚的の手がかりを使うのが有効だということを紹介しました。2週目のきょうは、「コミュニケーションの力を育てる」ということで、この視覚的の手がかりの使い方を、さらに詳しく見ていきます。
23	福祉ネットワーク	こども相談室	自閉症の子とともに	家庭を暮らしやすく		5010-3	今月のテーマは「自閉症の子とともに」。これまで2週にわたり、施設での取り組みを中心に自閉症という障害をどう理解し、かかわっていったらいいのかを見てきました。今週は「家庭を暮らしやすく」ということで、自閉症のお子さんにとって家庭を過ごしやすい場所にするための具体的なアイデアを見ていきます。
24	福祉ネットワーク	こども相談室	自閉症の子とともに	スペシャルトーク	“光”の世界にこめた思い	5010-4	今、子育て中の主婦たちから支持を集めている漫画があります。『光とともに…～自閉症児を抱えて～』。自閉症の息子を育てる母親が直面する困難と孤独、苦しみの中で気付く、息子のかけがえのなさ。

25	福祉ネットワーク	こども相談室	てんかんと上手につきあう	突然おこる発作への不安		5014-1	100人に1人が発病すると言われる「てんかん」は、発作を繰り返すのが特徴の脳障害です。今月は、この発作とどう向き合い、どう子育てに取り組んでいったらいいのかを見ていきます。
26	福祉ネットワーク	こども相談室	てんかんと上手につきあう	知的障害をともなう		5014-2	100人に1人が発病するとも言われている「てんかん」。発作の多くは薬で抑えることができますが、中には治療の難しいケースや知的障害を伴う場合もあります。きょうは「知的障害を伴うてんかん」について考えます。
27	福祉ネットワーク	こども相談室	うちの子どもは世界一	お兄ちゃんになったね	拓己君の成長記録	5014-3	毎週水曜日にお送りしている「子どもの相談室」では、「うちの子どもは世界一」のコーナーに、たくさんのお便りをいただきました。そこには、わが子の病気や障害がわかったときの絶望感や、そこからの立ち直り、そして、そんな子どもといっしょに前向きに歩んでいこうという親御さんの気持ちがつづられています。
28	福祉ネットワーク	こども相談室	てんかんと上手につきあう	あなたの悩みに答えます		5014-4	今月は、てんかんのあるお子さんへのケアと、病気との付き合い方をテーマにお送りいたしました。きょうは、専門家の先生にお越しいただき、番組あてにお寄せいただいた皆さんからの質問やご相談にお答えいたします。
29	福祉ネットワーク	こども相談室	うちの子どもは世界一	お手伝いするよ	恵里ちゃん成長の記録	5015-1	そこには、わが子の病気や障害がわかったときの絶望感や、そこからの立ち直り、そして、そんな子どもといっしょに前向きに歩んでいこうという親御さんの気持ちがつづられています。 山梨県石和町に住む松川恵里ちゃん（8歳）は、ダウン症という障
30	いきいき働く	知的障害者たち				5015-2	
31	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	スペシャルオリンピックス	知的障害者のスポーツの祭典		5015-3	ポーツの祭典が開かれました。「スペシャルオリンピックス世界大会」です。 今年で11回目を迎えたこの大会には、日本を含む166の国と地域から8,000人の選手が参加、9日間にわたり熱戦を繰り広げました。 今日は、この大会に参加した2人の選手をお招きして、スペシャルオリンピックスの活動を見つめます。

32	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	"シャイン"愛が いやしてくれた	ピアニスト デ ビュット・テルフ ゴット		5015-4	
33	列島スペシャル	お仕事がんば ります	自閉症からの自 立			5016	川崎市の老人ホームで働く明石徹之さん(26)は、6年前、市の公務員試験に合格した。自閉症で知的障害のある明石さんが、社会の中で公務員として自立していく姿を、母親の育児記録や周囲の人々との交流を通じて描く。
34	福祉ネットワー ク	障害者くらし情 報	これが妻の生き る道	盲ろう者の 夫との9年		5016-1	
35	いってみよう	どきどきコン サート	きょうとふよう			5016-2	
36	福祉ネットワー ク	障害者くらし情 報	ここの歩みを見 つめて	レット症候 群と闘う11 年		5016-3	滋賀県甲南町にお住まいの谷明日香ちゃん(11歳)は、女の子の約1万人に1人の割合で発症すると言われる難病「レット症候群」と闘ってきました。成長の段階で、体の機能が徐々に失われていく病気です。 将来への不安を抱えながらも、こころを通い合わせてきた明日香ちゃんと、母親の信子さん。お2人の11年間の歩みをたどります。
37	福祉ネットワー ク	障害者くらし情 報	6人兄弟	心のきずな		5016-4	障害や病気と共に生きるお子さんとそのご家族を訪ね、前向きに生きる姿をご紹介するシリーズ「うちの子どもは世界一」。今回は、高知市にお住まいの小松さんご一家を、約1年ぶりに訪ねました。

38	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	ようこそぼくの店へ	ダウン症の喫茶店店長奮闘記		5017-1	東京都練馬区にある小さな喫茶店。店長はダウン症の障害がある望月健太郎さん(23歳)です。父親の正彦さんがオーナーを務め、親子で営む喫茶店。 店のオープンまでには、ダウン症に向き合ってきた家族の20年に及ぶ余曲折がありました。生き生きと働く店長の健太郎さんと、その奮闘を支える家族の姿を追いました。
39	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	施設解体どう進むのか			5017-2	今、全国にいる約46万人の知的障害者のうち、約13万人が入所施設で暮らしています。そんな中、施設で暮らす障害者も地域に出て私たちと共に暮らそうという、「施設から地域へ」という動きが出てきま
40	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	最後まであきらめたら、アカン!	中学校教諭溝上佳孝さん		5017-3	溝上佳孝(みぞかみ よしたか)さん[26歳(さい)]は、大阪府(おおさかふ)の公立中学校(こうりつちゅうがっこう)で教師(きょうし)として働(はたら)き始(はじ)めて2年(ねん)です。一年生(いちねんせい)の英語(えいご)の授業(じゅぎょう)と、副担任(ふくたんにん)を受(う)け持(も)っています。 溝上さんは、4年前(ねんまえ)に“レーベル病(びょう)”という視神経(しんけい)が萎縮(いしゆく)する病気(びょうき)になり、1.5あった視力(しりょく)が数週間(すうしゅうかん)で0.02に低下(ていか)しました。
41	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	自立をめざして	障害者カップルの半年		5017-4	三重県上野市。人口6万人の城下町です。街の不動産屋の前に新田敏二さん(39歳)、節子さん(38歳)夫婦の姿がありました。敏二さんは先天性の知的障害、そして節子さんはくも膜下出血による左半身まひなどの後遺症を持っています。
42	福祉ネットワーク	きらっと生きる	施設よさようなら	長野県・西駒郷の取り組み		5018	今、全国にいる約46万人の知的障害者のうち、約13万人が入所施設で暮らしています。そんな中、施設で暮らす障害者も地域に出て私たちと共に暮らそうという、「施設から地域へ」という動きが出てきました。 ノーマライゼーションという理念の下、関心を集めている「入所施設の解体」。きょうはこの動きについてお伝えいたします。
43	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	障害者支援は守れるのか	介護保険との統合問題		5018	昨年4月に始まった障害者支援費制度は、さまざまな福祉サービスを障害者本人が選択し、補助金で利用できるという制度です。しかしそれは、開始わずか1年で財源不足による破たんをきたしてしました。今年1月、国は財源の安定が図れると、介護保険との統合案を掲げます。障害者支援費制度はなぜ行き詰まったのか。残された道は、介護保険との統合しかないのか。

44	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	アートで生きたい			5019-1	知的障害者が持つアートの可能性。その才能を生かして自立を目指すという日本初の授産施設が昨年4月、大阪に誕生しました。その取り組みを見つめます。大阪市の南部、住宅が立ち並ぶ一角にスタイリッシュな建物があります。ここがアトリエ インカーブ。自閉症やダウン症など、知的障害のある18人が通い、絵や焼き物など、自分の好きなジャンルの作品を仕上げています。
45	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	施設から町へ	旅立ちの3日間		5019-2	「施設解体」を宣言した宮城県。県立の知的障害者入所施設「船形コロニー」(入所者約400人)では、すでに60人が施設をあとにし、地域生活を始めています。そして、この6月、比較的障害の重い5人が施設を出ることとなりました。番組では、その旅立ちを追いました。
46	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	絵で育むきずな	自閉症		5019-3	『私のところには7歳の息子がいます。息子の健は自閉症です。そして私は、重度の難聴で耳が全く聞こえません。どうやってコミュニケーションすればいいか悩みながら子育てを続けてきました。健は絵を描くことが大好きで、毎日いろいろな絵を描いています。絵を描いている時が一番落ち着くようです。そんな健の成長ぶりを見るのが、今の私の支えであり、喜びにもなっています』
47	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	ポローニャ 福祉都市			5019-4	イタリア北部の都市、ポローニャ。自治都市としての長い歴史を持ちながら、福祉に対しては革新的な側面も持っています。 作家活動のみならず、福祉にもたいへん関心が高いという井上ひさしさんが、このポローニャを訪れました。
48	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	パラリンピックへの挑戦	視覚障害者柔道	加藤裕司選手	5020-1	シリーズでお伝えしている、パラリンピックへの挑戦。きょうは、柔道とまっすぐに向き合ってきた男の、パラリンピック初挑戦への日々を追います。

49	Bs世界のドキュメンタリー	続・アリソンの赤ちゃん	障害を乗り越えた母の子育て			5020-2	
50	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	施設を出て町へ	知的障害者	4ヶ月が過ぎて	5020-3	「重い障害のある人も施設を出て地域で暮らすことが、より人間らしい生き方だ」という考え方が広がっています。宮城県では2010年までに県内の大型障害者施設「船形コロニー」を解体すると宣言し、すでに60人の人たちが地域での生活を始めました。 番組では7月に、そんな新しい生活を始めた5人をご紹介します。その後、メンバーたちは仲良く暮らしているのでしょうか。地域にうまく溶け込むことができたのでしょうか。4か月たった今の暮らしを見てください。
51	福祉ネットワーク	ともに生きよう	ステージで僕は輝く	ダウン症の指揮者とその父		5020-4	ダウン症のため知的障害がありながらも、オーケストラの指揮者として世界各地で活躍している 中国人のジョージョー(舟舟)さん(26歳)。 11月。大分市と武漢市の友好都市締結25周年記念コンサートのため、武漢オーケストラと共に初来日したジョージョーさんと、父親のコウバイ(胡厚培)さんを訪ねました。
52	福祉ネットワーク	ともに生きよう	施設(船形コロニー)を出て町へ	知的障害者	地域生活の始まり	5021-1	去年12月、仙台市内の住宅で、お正月を前に一足早いもちつきが行われました。もちをつくのはこの家に暮らす知的障害のある人たちです。この日は地域の人でも大勢駆けつけてくれました。

53	福祉ネットワーク	ともに生きよう	大人のアスペルガー症候群			5021-2	<p>「あいつは変わり者だ」「常識がない」と言われていた人たちが、実はアスペルガー症候群という脳の障害だったと診断されるケースが増えています。例えば、周りがどんなに忙しくしていてもそのことに気づかず、一人だけ先に帰ってしまう。物事の優先順位が決められず、次の行動になかなか移れない。そして、一度興味を持ったものに対しては、時間を忘れてとことんのめり込む。</p> <p>この障害は、適切なケアを受けずにいると本人に強い精神的ストレスがかかり、うつ病や強迫性障害などを引き起こす危険性もあります。きょうは、大人のアスペルガー症候群の実態を紹介し、どのようにサポートしていけばいいのかを考えていきます。</p>
54	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	検証・障害者自立支援法			5022-1	<p>ことし2月、障害者自立支援法案が国会に提出されました。障害者が地域で暮らしていけるよう、福祉サービスの提供や利用の仕組みを抜本的に改革しようというものです。しかし、障害者のほうからは利用料の1割負担により生活が圧迫されるのではないかと、必要なサポートが受けられなくなるのではないかと、という不安の声もあがっています。</p> <p>障害者自立支援法はほんとうに障害者の生活を支えることができるのでしょうか。きょうは、この法案の内容や課題について検証します。</p>
55	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	情熱のタクト・新しき挑戦	指揮者小林研一郎		5022-2	<p>その情熱的な指揮から、「炎のコバケン」と呼ばれる指揮者の小林研一郎さん。日本だけでなく、ハンガリーやチェコのオーケストラを率いて世界を舞台に活躍しています。そんな小林さんが、ことし2月、長野で開かれた知的障害者のスポーツの祭典、スペシャルオリムピクス世界大会で、世界各国の選手たちにクラシックを楽しんでもらおうと、無料でコンサートを開きました。</p>
56	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	600通のメッセージ	発達障害の子どもたち		5022-3	<p>3時間の生放送中の反響はたいへん大きく、実に600通ものファクスがお寄せられました。そこできょうは、こうした皆さんの声をご紹介します。あらためて発達障害というものについて考えていこうと思います。</p>

57	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ発達障害の子どもたち	小学校への支援		5022-4	<p>今、全国の小中学生の約6%に、LDやADHD、自閉症といった発達障害があると言われています。はた目からは障害のありようが見えにくい発達障害。周囲は、どう取り組んでいいかわからず、戸惑う人も多いと言います。</p> <p>きょうは、あるアスペルガー症候群の児童の成長を追い、小学校における支援のあり方について考えます。</p>
58	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ発達障害の子どもたち	中学校への支援		5022-5	<p>発達障害の子どもたちへの支援を考えようというシリーズ。2回目のきょうは、中学校での支援のあり方を考えます。</p> <p>小学校と違い、教科ごとに受け持ちの教師が替わり、英語という新しい科目も入ってくる中学校。このような環境の中で発達障害の子どもたちを支援するにはどうしたらいいのでしょうか。まずは、ある中学校の取り組みの様子をご覧ください。</p>
59	きびきびワイド	NHK岡山	太鼓の響きが笑顔を作る	あすなろ太鼓		5022-6	
60	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ発達障害の子どもたち	高次機能障害	自立への新たな試み 成人	5022-7	<p>交通事故や脳こうそくなどにより脳に損傷を受けたことが原因で起こる「高次脳機能障害」。近年の救命救急医療の進歩により、一命は取りとめたもののこうした後遺症が残ってしまう患者の数が増えています。しかし、高次脳機能障害においては治療法も確立されておらず、専門のリハビリ機関も少ないというのが現状です。</p> <p>そんな中、仙台市では4年前から、市民団体が民家を借りて独自のリハビリを始めました。きょうは、その様子をご覧いただきながら、高次脳機能障害のリハビリの取り組みについて考えます。</p>
61	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ発達障害の子どもたち	Q&A		5022-8	<p>「人によってさまざま」な発達障害とは、いつたいていう障害なのか。どのような支援がありうるのか。LD(学習障害)の支援の取り組みの例をご紹介します。</p>

62	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	ハート展			5023-1	障害のある人の詩に、著名人が絵などのアートを寄せるNHKハート展の世界を紹介。俳優の関口知宏さんは、車いすの青年と健常者の少女が海辺で夕日を眺めながらほほえみあう絵を描いた。もともった詩を書いた、嘉数(かかず)萌さん(16歳)は沖縄市にある泡瀬養護学校高等部1年生。友達と買い物にでかけるのが大好きな16歳。関口さんと一緒に萌さんの日常を見つめる。
63	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	ぼくは挑戦し続ける	ダウン症の俳優	パスカル・デュケンヌ	5023-2	俳優、パスカル・デュケンヌさん(34歳)は、知的障害者のための芸術学校で演技を学びながら、ヨーロッパを中心に世界各地の舞台で公演を行っています。 芸術との出会いは、パスカルさんの人生を大きく変えました。決して優しい道ではありませんでしたが、一つ一つ小さな挑戦を重ねてきたパスカルさんは今、新しい夢に向かって歩き始めています。
64	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ検証・介護保険	介護難民をなくせるのか		5023-3	2回にわたって改正された介護保険を検証するシリーズの2回目。今回は、この改正によって医療的なケアが必要だったり、認知症の症状があったりといった、特に重度の方を十分に支えることができるようになるのか、検証していきます。
65	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	患者の声が医療を変える			5023-4	「講師は患者・生徒は医師や看護師」という公開講座が4月から国際医療福祉大学で行われている。その中から、「ハンディキャップへの挑戦」という講座を取材。障害者がハンディキャップをどう乗り越え、どうやって長い人生を歩んでいくのか。講座の様子を紹介しながら、
66	ETV特集	”まち”に帰った障害者	宮城・施設解体の1年			5024-1	先進国で唯一、“施設”で暮らす知的障害者が増え続けている日本。「地域で暮らしたい」という障害者本人の声は長く封印されてきた。そのなかで宮城県は2004年、県内すべての施設入所者を順次、地域社会へと送り出す「施設解体宣言」を発表。関係者に衝撃を与えた。番組では、施設を出て地域のグループホームに移り住んだ重度の知的障害者を1年にわたり取材。日本の地域福祉の現状と課題を浮き彫りにする。

67	フジテレビニュース	障害者の自立				5024-2	
68	RSKテレビニュース	未熟児などの障害ケア	ボランティア民間のグループ			5024-3	
69	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	シリーズ検証・介護保険	1~3		5024-4	介護保険のスタートから5年。必要なサービスを自分で選ぶことができる介護保険は、日本の介護を大きく変えると言われました。今、わたしたちの介護生活は満足のいくものになったのでしょうか。
70	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	ニートの自立支援			5024-5	
71	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	心を写した連続画	自閉症の青年と両親の日々		5025	ある自閉症の青年が9年かけて描いた2,000枚の絵があります。よく見るとそれは、幼稚園のころの一日の生活が時間に沿って描かれています。 16歳の時、突然幼稚園のころの絵を描き始めた佐藤輝尚さん(35歳)のその絵は、両親にとって、自分の気持をうまくことばで伝えることのできない息子の心を知る手がかりになってきたと言います。 きょうは、そんな輝尚さんの絵に投影されている心の世界を見つめます。

72	ETV特集	ともに生きる	こんな介護者が欲しい	障害者が語る理想の介護そして制度		5026	<p>いま、地域で自立生活をおくり、さまざまな活動をしている障害者が増えています。そんな障害者が自ら決めた人生や価値観に従って自分らしく生きようとする時、欠かすことができないのが身近な《介護者》の存在。</p> <p>10月は、この《障害者の介護》がテーマです。スタジオには実際に介護を受けている障害者が集結、理想の介護や制度、介護者とのあるべき関係について、徹底的に語り合います。</p>
73	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	自立支援法	負担はどう変わる？		5027	<p>16歳の時、突然幼稚園のころの絵を描き始めた佐藤輝尚さん(35歳)のその絵は、両親にとって、自分の気持をうまくことばで伝えることのできない息子の心を知る手がかりになってきたと言います。</p>
74	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	めざせ！就職内定	養護学校 秋の陣		5028-1	<p>養護学校に通う生徒たちの就職率は、全国平均20パーセントと厳しい。そんな中、東京都立葛飾養護学校は、教師と生徒が一体になった取り組みにより、毎年50パーセントを超える就職率を達成している。就職活動が正念場を迎える10月から11月。徹底した指導と企業へのアプローチで驚異的な就職率をあげる葛飾養護学校の取り組みに密着し、知的障害者が就職するための課題について考える。</p>
75	ETV特集	ともに生きる	障害のある人もない人も”働く！”			5028-2	<p>12月は「障害者の就労」がテーマです。</p> <p>「障害があっても自分らしく、自立した生活を送りたい…」そう願い、社会に出て働きたいと考える障害者は増え続けています。その一方で、国が定めた法定雇用率(1.8%)が未だ達成されない現実…。障害者の生きがいや自立に直結する「働く」環境を整えることは、「ノーマライゼーション」を進めるためには不可欠な要素です。「障害者週間」(12月3日～9日)が始まるこの日、全ての人が暮らしやすい社会とは何かを考えます。</p>
76	福祉ネットワーク	NHK障害福祉賞	障害者雇用での出会い			5029-1	<p>障害のある人、あるいは、それにかかわる人々の手記をご紹介しますシリーズ「NHK障害福祉賞」。3回目のきょうは、優秀賞に輝きました三重県の中堀良子さんの手記「障害者雇用での出会い」をご紹介します。</p> <p>企業で働く知的障害の人たちの支援を続けて15年。今に至るまでには、さまざまな知恵や工夫、かつとうの日々がありました。</p>

77	福祉ネットワーク	NHK障害福祉賞	頭がチーズだったから	脳性マヒ	5029-2	<p>きょうはその中から、最優秀賞に輝いた静岡市の杉田知代子さんの作品「頭がチーズだったから」をご紹介します。</p> <p>自分自身を信じ、自分自身の能力を伸ばしていこうというひたむきな努力に、自分自身の人生を生きようとする勇気を感じます。ぜひこの手記は、中学生や高校生といった若い世代の皆さんとごいっしょにご覧ください。</p>
78	福祉ネットワーク	NHK障害福祉賞	わが家のステキな個性	ADHD	5029-3	<p>ADHD(注意欠陥多動性障害)のある笹森さん。決して平たんでない道のりの末、現在はたいへんユニークで明るい家庭を築き上げています。ご覧ください。</p>
79	BST*コメント	シリーズ立花隆が語る	サイボーグ医療の時代	人体と機械の融合	5030-1	
80	BST*コメント	シリーズ立花隆が語る	サイボーグ医療の時代	脳とどこまで変えるのか	5030-2	
81	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	「ビリーブ」ぼくたちを信じて		5031-1	<p>11月3～5日、熊本で知的障害者のスポーツの祭典「スペシャルオリンピック」全国大会が開かれた。その様子を知的障害者みずからが記録する撮影クルーがある。19歳から36歳までの9人で構成された「ビリーブクルー」である。自分たちを信じてという思いから名付けられた。映画監督の小栗謙一さんの指導のもと、昨年2月に長野県で開催されたスペシャルオリンピック世界大会取材した。今回そうした実績が認められて大会の公式記録班の一員に名を連ねたビリーブクルー。番組では知的障害者自身が撮影するユニークな映像記録ができていくまでをドキュメントする。</p>
82	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	大岳くん親子成長の記録	多発性奇形と告げられて	5031-2	<p>元気いっぱいの大岳くんに会うのを楽しみに、広島市の郊外、瀬戸内海を見下ろす高台のマンションを訪ねました。初めて会うわたし(石井めぐみさん)の顔を「誰だろう?」とじっと見つめる大岳君でしたが、少し慣れてくると、本来の遊びが始まりました。</p>
83	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	僕たちの旅立ち	6人兄弟それぞれの夢	5031-3	<p>きょうだい6人、互いに支え合ってきた小松家に、この春、ある出来事が起こりました。小学校を卒業し、養護学校に進学することになっている三男の健太君が、「養護学校に併設している寄宿舎に入る」と言い出したのです。</p>

84	有線テレビ	サポートハウス金光				5031-4	
85	きびきびワイド	NHK岡山	倉敷南中学校の取り組み			5031-5	
86	福祉ネットワーク	障害者くらし情報	あそびを生み出す学校			5031-6	
87	ふれジョブ	きびきびワイド610	報道室だよりNHK	「職場体験で自立を」	NHK倉敷報道室	5032-1	
88	ふれジョブ	NEW記者レポート	特集「全国に誇れる福祉施策を目指して」			5032-2	
89	ETVワイド	ともに生きる	今だから聞きたい！	障害者が社会に伝えられること		5033	今年施行された障害者自立支援法。障害者の多くが、戸惑いや怒りを感じています。同時に、＜困った時はお互いさま＞だったはずの社会保障制度が＜サービスを受けた者が払うのは当たり前＞へ大転換。障害者がこれまで自分たちの生き方を通して作り上げてきた価値観がいま、大きく揺らいでいます。今回は、障害当事者や福祉関係者などが一堂に会し、障害のある人もない人も「ともに生きる」社会のあり方について、徹底的に話し合います。
90	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	働く			5034-1	障害者自立支援法がうたう「就労移行支援」。障害者が施設を出て、経済的に自立するためには、一般企業などで就労することが必要とあり、2年をめどに就職するよう訓練をサポートするもの。三重県伊賀市にある、知的障害者の施設では、いち早くこの支援事業を取り入れ、17人が就労に向けて取り組み始めた。しかし、実習の場を提供してくれる企業は少なく、訓練をどう指導するのか、そのノウハウも確立していない中で、手探りの支援が続く。一方、京都府舞鶴市にある精神障害者の施設では、ほとんどの障害者が「就労移行支援」を選ばなかった。施設の協力を得てアンケートを行った結果、多くの人が過去に就労経験があり、そこで受けた周囲の無理解によって、一般企業での就労に自信を失うなど、傷ついていた。就労に向け、何をどう支援したらよいか。あるべき就労支援とは何か、検証する。

91	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	地域で暮らす			5034-2	<p>障害者自立支援法は、「地域移行」(障害者が施設を出て地域で暮らす)を支援している。国は、5年かけて施設で暮らす人たちを6万人減らそうと考えている。その選別として障害程度区分を導入した。神奈川県平塚市の身体障害者入所授産施設「貴峯荘」では、3割、4割の人たちが施設を出る区分に判定された。が、低収入、バリアフリーなどの住居も不十分なため、不安を抱いている。</p> <p>入居した後も必要な情報やサポートが滞るなど、地域の整備は遅れている。国は施設入所を減らす一方、GHなど受け皿を拡大する方針を打ち出している。</p> <p>千葉県袖ヶ浦市で知的障害者のGHを運営するNPO法人「ぼぴあ」では、法律施行後、補助金が減り、世話人をリストラしなければならなくなった。その結果、利用者が孤独を感じ、生活がおびやかされている。どうしてこんな事態に陥ってしまったのか？ゲストと共に考えていく。</p>
92	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	社会に出る			5034-3	<p>障害者自立支援法では、障害者が社会に出ていうために必要な支援を保障し、そのサービスを利用者のニーズに合わせるために国から地方に移行した。</p> <p>神奈川県川崎市では、これに伴い、移動介護を2つの単価に分けてサービスをスタートした。日常に必要な移動支援と余暇・社会活動のふれあいガイド。しかし、その単価を分けた結果、事業所が打撃を受け、外出サービスから撤退する所も現れ始めた。</p> <p>一方、障害者自立支援法により、個人の生活が激変した市町村も現れ始めた。宮城県名取市。市が決定した支給量は旧制度と比べ激減。その結果、障害者の生活に支障が出ている。なぜ、このような事態になったのか？解決策はあるのか？</p> <p>そして、障害者の自立とは？ゲストと共に考えていく。</p>
93	福祉ネットワーク	自立を支える支援の輪	ハローワーク敦賀の取り組み			5035-1	<p>障害者の雇用がなかなか進まない中、福井県敦賀市の「地域障害者就労支援事業」が注目を集めている。ハローワークが中心となって、企業と福祉のスタッフをつなぎ、障害者の就労を支援するこの取り組みは、一般企業へ就職する障害者数が増加するなど、大きな成果をあげている。番組では、障害者にとって真に必要な就労支援のあり方とは何か、敦賀市の取り組みから考える。</p>

94	ハートをつなごう	障害児学級から通常学級へ				5035-2	学校編のパート2として、普通学級での支援をどうしたらよいか、を考えます。番組では愛知県の小学校で、発達障害の子どもを普通学級で支えているケースを紹介。さらに校長や教員、関係者をスタジオに招き、発達障害の子どもを支えるためのクラス運営や学校運営のヒントを語り合います。
95	ハートをつなごう	通常級へのチャレンジ				5035-3	
96	福祉ネットワーク	石井筆子を知っていますか	映画になった障害児教育の母			5035-4	日本の知的障害児教育の母・石井筆子。長崎の名家に生まれ、津田梅子とともに女子教育の先駆けとなり「鹿鳴館の華」と言われた。授かった長女に知的障害があったことから筆子の運命は変わった。日本初の知的障害児施設「滝乃川学園」を設立した石井亮一と再婚し、亮一の死後はみずから園長となって、障害者の教育と生活を守るために尽力した。筆子の生涯をたどる。
97	福祉ネットワーク	ボクの生きる	自閉症の世界			5035-5	千葉県の養護学校中学部に通う東田直樹くん(14歳)は、自閉症。ぴよんぴよん飛び跳ねたり、突然大きな声を出したりしてしまう。コミュニケーションが苦手な話すことはできない。しかし、直樹くんは、パソコンや文字盤を使えば、自分の思いを表現することができる。これまで、自閉症の人本人の言葉で語られることがほとんどなかった、自閉症の人たち特有の感覚世界。文字盤を介しての本人インタビューを交え、直樹くんの「心の声」を見つめる。
98	クローズアップ現代	職場を去る障害者	自立支援法の波紋	2006/7/3		5036	今年、4月施行された障害者自立支援法が障害者福祉の現場を一変させている。これまで身体、知的、精神によって、バラバラだった障害者施策を一本化し、市町村を福祉の実施主体とすることをうたった自立支援法だが、同時に福祉施設やホームヘルプなどの費用の1割を障害者自身が負担することとなった。作業所や授産施設などでは、障害者の工賃より施設の利用料が上回る逆転現象が頻発し、施設をやめる障害者が相次いでいる。また10月からは福祉サービスの体系が一新され、福祉施設を利用する障害者を一般企業への就労に結びつける支援が強化される。本当に障害者の自立は進むのか、障害者自立支援法が福祉の現場にもたらす波紋を追う。 (NO.2264)

99	我がまちの福祉自慢	縦割りの壁を越えて	埼玉県東松山市			5037-1	シリーズ「我がまちの福祉自慢」。きょうは埼玉県東松山市が舞台です。ヘルパーの派遣や日々の生活支援、就職へのサポート。東松山市に暮らす障害者は、きめ細かいサービスを受けることができます。全国的にも注目される手厚いサービスがなぜこの町で可能になったのでしょうか。 「我がまちの福祉自慢」。3回目は障害者の暮らしを支える取り組みを見ていきます。
100	我がまちの福祉自慢	共生ケアは地域を変える	富山県富山市			5037-2	子ども、障害がある人、そしてお年寄り、手助けが必要な人ならいつでも誰でも利用できる。富山県富山市にはそんな頼りになる民間のデイサービス施設があります。共生ケアと呼ばれるこうした取り組みは、高齢者や障害者を抱える地域の人たちの切実な願いの中から生まれてきました。
101	ハートをつなごう	発達障害1～4				5037-3	
102	福祉ネットワーク	僕たちの農園	春から夏へある作業所の取り組み			5038	横浜市の住宅地にある”グリーン”は主な活動を農作業に置く、全国でもユニークな作業所。30人あまりの障害者と支える職員やボランティアが、畑仕事に汗を流し、米や野菜など数十種類の作物を育て販売している。番組はここを舞台に、障害者と支える人たちがともに生きていく姿を生活の中で描いていく。今回は 夏編。炎天下、毎日黙々と続く畑作業を通して、育まれていく作物とひと、そしてひとひとの交流を描いていく。
103	毎日放送 映像'6	ぼちぼちはうす	障害者自立支援法の波紋	2006/3/19		5039-1	
104	NHK総合	自立支援？	新法施行で泣く障害者たち	2006/4/19		5039-2	
105	神戸サンテレビ	障害者自立支援法で現場は		2006/5/3		5039-3	

106	福祉ネットワーク	検証 障害者自立支援法				5040-1	<p>ことし2月、障害者自立支援法案が国会に提出されました。障害者が地域で暮らしていけるよう、福祉サービスの提供や利用の仕組みを抜本的に改革しようというものです。しかし、障害者のほうからは利用料の1割負担により生活が圧迫されるのではないかと、必要なサポートが受けられなくなるのではないかと、という不安の声もあがっています。</p> <p>障害者自立支援法はほんとうに障害者の生活を支えることができるのでしょうか。きょうは、この法案の内容や課題について検証します。</p>
107	福祉ネットワーク	こくつぽ家の人々	発達障害の子どもとともに			5040-2	<p>「こくつぽ」と呼ばれ、かわいがられている自閉症の弟と、アスペルガー症候群のお兄ちゃん。</p> <p>2人の子育ての日々を母親が明るくつづけています。</p> <p>『1年前は「かあちゃん」と「だめ」くらいしかしゃべれなかったのに、今はもう、数え切れないほどの単語を使っています。パニックや行方不明事件もなくなってきました。子どもの成長ってスゴイと思います。(2000年7月29日の日記より)』</p> <p>障害のある子どもたちを、家族は温かく見守り、共に歩み続けています。</p>
108	福祉ネットワーク	ふたりでひとつが無限大	岡山			5040-3	<p>6月。岡山県で、障害のある若者とアーティストがペアを組み、2人で作りあげた作品を発表するというイベントが開催されました。プロのアーティストが深くかかわることで、一人一人に眠っている感性の扉を開くことが狙いです。</p> <p>きっかけさえつかめば可能性は無限大。2人で1つの作品を目指し交流を重ねた半年間を追いました。</p>
109	ハートをつなごう	発達障害の子どもとともに	夫婦でできることは			5040-4	
110	ハートをつなごう	発達障害の子どもとともに	夫婦で協力するには何が必要か			5040-5	
111	ビデオスケッチ未来の地図	夢は考え中です				5040-1	<p>4月から養護学校の高等部3年生になった、ちよっぴり照れやさんの智貴くん。だけど、明るいお母さんの影響もあってか、行動範囲は広く、地域には彼を知る人もたくさんいます。アーティストにも出身者が多いアクターズスクールではよき指導者と素敵な仲間にも囲まれて活動中。思春期の青年の今を追いかけます。</p>

112	ビデオスケッチ未来の地図	おそい春 満開			5040-2	伊藤美保子(いとうみおこ)さんは、長野養護学校の高等部に通う、歌が好きで、笑顔がかわいい女の子です。学校での勉強も大好きですが、出かけることはもっと好き。そんな美保子さんが、4月の半ば、茜舎クラブのみんなと一緒に、桜を見に電車で出かけました。長野の遅い春の訪れを、からだ全体で受け止める美保子さんがそこにいます。
113	ビデオスケッチ未来の地図	おのね♪やあくん			5040-3	養護学校を卒業して地域の中学校に入学した泰久くん。学校が終わるとスタッフとともに放課後クラブへ。口数少ない泰久くんですが、伝えたい！ときはがさごと、ウエストポーチから秘密兵器を取り出して……。好奇心旺盛で、しゃべらずにはいられない”やっぱりなにわっ子”の泰久くんなのでした。
114	ビデオスケッチ未来の地図	かけなさい 14歳			5040-4	平野 栄さんはお年ごろの14歳。とりわけオシャレに興味いっぱい。お気に入りのゴムやピンでヘアスタイルを整えるのが大好きです。音楽では特にジャニーズ系がお気に入り、食卓ではお父さん、お母さん、お姉ちゃんとタッキーの話題で大はしゃぎ！ 家族の愛情に育まれて、栄ちゃんは今日も元気に笑っています。
115	ビデオスケッチ未来の地図	ずっと親友！			5040-5	杉山翔くんと大場亮輔くんは1歳1学年の年の差。中学以来ずっと一緒だったという二人。今は同じ養護学校で生徒会長、副生徒会長をつとめています。放課後はスポーツで汗を流し、ゲームで遊んで、何をやるにもいつも一緒。お互いを認め合い、熱い友情で結ばれている翔くんと亮輔くん。放っておけば何時間でもいられる大親友の二人です。
116	ビデオスケッチ未来の地図	まさに鐘だね！			5040-6	満面の笑顔がトレードマークの内田将大(まさひろ)くん。彼の一週間はピアノ、阿波踊り、ボーリング、バスケットボールとスケジュールがぎっしり。普通なら心配になる多忙な毎日、根っから楽天家の将大くんは何でも楽しんじゃうのです。そんな日々の息抜きはオシャレな美容室。カッコいい髪型に変身した将大くん、その純粋な心と行動力で、今日もみんなに笑顔をお届けます。
117	ビデオスケッチ未来の地図	とも タッチ！			5040-7	関谷友里さんは公立中学校の特別支援学級に通う13歳です。歌が大好きで天真爛漫なその姿はまるでヒマワリみたい。楽しみにしていた運動会がいよいよ本番！みんなに混じってどきどき、わくわく。ちょっと友里さんは興奮気味？リレー、綱引き、大縄跳び……。中学校に入っちはじめての運動会はどんな思い出になったのでしょうか。
118	ビデオスケッチ未来の地図	ゆうき OK？			5040-8	幼い頃からよく歩いていたという佑樹くん。スマートなわりに体力があって、12歳になった今も友だちと遊んだりハイキングに行ったり、元気いっぱいの毎日を過ごしています。この夏挑戦した登山では険しい登りも何のその、山頂めざして一目散にダッシュ！ボランティアやヘルパー、友人家族やご近所さん……。大好きな人たちに囲まれて、佑樹くんの世界はまだまだ広がっていきます。

119	ビデオスケッチ未来の地図	大家族のひとみ			5040-9	柿本一家は三世代が一緒に住む大家族。みんなの愛情をいっぱいを受けて育ったひーちゃんは誰にでも優しい11歳の女の子です。おじいちゃんの還暦祝いのパーティで大さわぎのひーちゃん! 大きすぎる(?)ひーちゃんの笑い声がみんなを包み込み、パーティは大盛り上がり!! いつでも幸せを振りまくひーちゃんのまわりにはいつも笑顔があふれています。
120	ビデオスケッチ未来の地図	はやぶさタックル			5040-10	隼人くんは高等専修学校に通う高校一年生。学校では先生や友だちからの信頼される中心的存在。所属するラグビー部では怪我から復帰して、新チームのレギュラーを勝ち取るために意気込んでいたのに、試合直前、今度は風邪で体調を崩して、「僕は本番に弱いから」と落ち込む隼人くん。果たしてラグーマン・隼人はグラウンドを走り抜けることができるのか……。
121	ビデオスケッチ未来の地図	お兄ちゃん成人おめでとう			5040-11	思い起こせば、2年前。養護学校の卒業式から、この物語は始まります。それから、武史くんは作業所へ通ったり、農業にチャレンジしたり、大人への歩みを進めていました。そして、今日は成人式。人混みが苦手だから緊張しているかと思いきや、同年代の仲間に混じって武史くんは大興奮! その日の夜は、家族でお祝いです。「お兄ちゃん。成人おめでとう」子どもから大人へ。武史くんはまだその第一歩を踏み出したばかりです。
122	ビデオスケッチ未来の地図	かべをぶちこわせ!			5040-12	高校2年生のくるみちゃんが今一番、情熱を燃やしているのは何といってもダンスです! 「ラブジャンクス」というダンススクールに通うくるみちゃん。普段はおっとりしているのに、踊りはじめると目の色が変わるんです。発表会前の最後の練習では、振り付けに戸惑いながらも、本番に強いと自信ありげだったくるみちゃん。大丈夫かな…。でも、もう本番だよ! 幕が開いてミュージックスタート! くるみちゃんのヒップホップがはじまりました!!
123	ビデオスケッチゆめステージ	4年越しの思いをモノレールに			5041-1	第3伊集の木荘というグループホームで暮らす島袋実博さん(42歳)は、那覇クリーンサービスに勤務し、市内のゴミ回収の仕事をしています。趣味はモノレールやバスに乗って県内を旅することです。島袋さんの夢は、4年越しで思いを温めている女性と一緒に、映画を見たり、バスの旅を楽しむことなのですが、周囲の仲間の励ましを受けて、ついに一歩を踏み出しました…。
124	ビデオスケッチゆめステージ	スポーツでゴーや			5041-2	体を動かすことの好きな松本紫穂さん(22歳)は、普段通う授産施設でも、自ら希望して畑の仕事をしています。取材の日、見晴らしのいい畑での収穫物は「ゴーや」。そんな松本さんが今、はまっているのがスポーツです。日曜日はバスケット、土曜の夜はフットサルと、二つのチームに入って汗を流しています。「自分のことは自分で決める」松本さんのスポーツでの活躍ぶりを中心に追いかけます。

125	ビデオスケッチゆめステージ	そうじはバスぴか！				5041-3	グループホーム・ファイブメンで暮らす茂木やすひとさん(21歳)の勤め先は、日立ゆうあんどあい。仕事の中身は、日立の社員寮での清掃です。血液型がA型の茂木さんの仕事ぶりは、周囲のだれもが太鼓判を押す堅実で几帳面そのもので、社員の中でもぴかーです。そんな彼の趣味はバスケットボール。よこすかスポーツクラブの一員として、試合に出たのですが、残念ながらシュートは入らず・・・。
126	ビデオスケッチゆめステージ	わたしは歌のシンデレラ				5041-4	2001年夏結成された「小池千鶴子&リトルギャルズ」。そのボーカルを務める小池千鶴子さん(33歳)の澄んだ声は、聞く人を魅了します。今回は埼玉と千葉で開かれたコンサートで、その実力を十二分に発揮しました。千葉では会場となった「やまぶき園」の園生が、小池さんの歌に酔いしれました。コンサートを終えた次の日、メンバーの野下展子さん、今村仁美さんと休日の1日を楽しみました。
127	ビデオスケッチゆめステージ	好きで得意は大道芸				5041-5	新宿区の製本会社に勤める大湖裕十さん(23歳)は、昨年6月江東通勤寮を卒業して、東京都育成会の運営するグループホームで暮らし始めました。その大湖さんの趣味は「ジャグリング」。大道芸でよく見る、ボールやピンを何個も一遍に回すあの芸です。本やビデオで独学し、また、大道芸をやっている所を探し出しては勉強しに見に行くそうです。とにかくまずは彼の腕前をゆっくりご覧ください。
128	ビデオスケッチゆめステージ	君と違えてよかった				5041-6	河野 登さん(73歳)は若いころは山仕事が忙しく、女性とつきあう暇はなかったと言います。50歳を過ぎて蒜山(ひるぜん)慶光園で井上安子さん(72歳)と出会って、すぐにお互い好意をもつようになりました。70歳を過ぎて、ようやくグループホームでの二人の暮らしが始まりました。同じ部屋で、ベッドを並べて手をつないでくつろぐ二人の姿はほほえましさそのものです。ここには確かに人の暮らしがあります。
129	福祉ネットワーク	僕らの耕す農園	ある作業所の試み	収穫の秋		5042-1	地域作業所グリーンメンバーの多くは重度の知的障害者たち。春、全員で代かきし、田植えをした稲が、この秋いよいよ実る。彼らの努力、成果が問われる季節でもある。試行錯誤で育ててきた米や野菜を収穫する喜び。さらに、自分たちが収穫した野菜を地域の祭りで売って地域の人たちと交流すること。新しい作物の種まきへの挑戦。そうした作業のなかで、成長していく仲間。
130	福祉ネットワーク	それでも子育ては楽しい	自閉症の息子とともに			5042-2	1980年、当時最年少17歳で文学賞を受賞した堀田あけみさん(43)。作家としての活動を続けながら教育心理を学び、大学の教壇に立ちました。人生が一変したのは結婚後、次男の海斗くんが生まれてからです。海斗くんは自閉症でした。いくら障害を説明しても夫にわかってもらえない。たたいはいけないとわかっていながらいらだち、手を上げてしまうこともしばしば。堀田さんは「障害児教育の教科書通りになんか、できるわけがない」と気づき、やがて子育ての楽しみを取り戻した。2006年には、堀田さんが自身の体験をつづった「発達障害だって大丈夫！」が出版され、評判に。

131	福祉ネットワーク	世界が定めた障害者の権利			5042-3	<p>昨年12月、国連総会で「障害者権利条約」が採択された。最初の提案から20年、当事者にとっては長年の悲願の達成。全50条に及ぶ条約は、障害者への差別を禁止し、社会参加の権利を広く認めた、初めての国際的な取り決めである。教育、雇用、情報へのアクセスなど、生活を営む上でのあらゆる分野に及び、条約が発効すれば、加盟192か国は障害者差別を禁止する厳しい義務を課せられることになる。条約によって障害者の暮らしはどうか変わるのか、国や企業は条約をどう受け止めれば良いのか考える。</p>
132	福祉ネットワーク	ボクの生きる自閉症の世界			5042-4	<p>千葉県<small>の</small>養護学校中学部に通う東田直樹くん(14歳)は、自閉症。ぴょんぴょん飛び跳ねたり、突然大きな声を出したりしてしまう。コミュニケーションが苦手な話することはできない。しかし、直樹くんは、パソコンや文字盤を使えば、自分の思いを表現することができる。これまで、自閉症の人本人の言葉で語られることがほとんどなかった、自閉症の人たち特有の感覚世界。文字盤を介しての本人インタビューを交え、直樹くんの「心の声」を見つめる。</p>
129	福祉ネットワーク	あそんでくれてありがとう			5042-5	<p>保育園と同じ敷地内にある障害児の通園施設「子ども発達支援センター・愛」が山口市にある。障害者も健常者も共に生きる…そんな環境を子供のころから育みたい、という思いで作られた全国的にも珍しい施設。施設では毎週一回、隣接する湯田保育所との交流を行ってきた。保育園の子どもたちからさまざまな刺激をもらうことで障害のある子ども達の表情や行動に小さな変化が現れ、また保育園の子どもたちも障害のある子どもたちといっしょに遊びながら自然に関わるようになっていく。</p>
130	マラソン				5042-6	<p>番組ではふれあいを通して成長していく子どもたちの姿を8か月に渡って見つめた。 パク・ミギョン原作、寺田敏雄脚本、吉田健演出。 福祉施設に通う自閉症の彰太郎(二宮和也)。 母の晴江(田中美佐子)は息子が優れた脚力を持っていると気づき、マラソンの練習をさせていた。 ある日、晴江は施設の取材に来た雑誌記者のさなえ(桜井幸子)からフルマラソンへの挑戦を勧められ、有名マラソンランナーの野口(松岡昌宏)を紹介される。 野口は訳あって陸上から離れていたが、彰太郎のコーチを渋々承諾。 戸惑いながらも練習を始めた野口は、純粋で率直な彰太郎を少しずつ受け入れていく。 彰太郎も野口に心を開き始め、フルマラソン大会出場に向けて練習を続ける。</p>
131	NHK総合ニュース	障害者が主役の職場づくり			5043	<p>岡山県赤磐市在住の鳥羽哲平君が、東洋ベアリングに就職し、会社のご理解により、作業能率を上げておられる様子が、ニュースとして</p>

132	福祉ネットワーク	スペシャルオリンピックを撮ろう	ビリーブクルー 上海取材記	前編		5044-1	2005年冬、スペシャルオリンピック冬季世界大会・長野。世界中のメディアが長野に集まる中、撮影クルー「Believe(ビリーブ)」はデビューした。メンバーは9人。みんな知的発達障がいがある。ビデオカメラや音声機材を操作するのは生まれて初めて。半年にわたる撮影勉強会を経て、知的発達障がいのある人たちのスポーツの祭典取材した。そのビリーブクルーが、再び集まった。今回の舞台は上海。今年10月に開催された「2007年スペシャルオリンピック夏季世界大会・上海」の撮影に臨むためだ。大会取材する彼らの2週間のドキュメントと、上海大会での日本人アスリートの活躍ぶりを、2日間にわたってお届けする。
133	福祉ネットワーク	スペシャルオリンピックを撮ろう	ビリーブクルー 上海取材記	後編		5044-2	ビリーブ「撮影隊日記 2007スペシャルオリンピック・上海」
134	福祉ネットワーク	共に生きる街を	日本初！障害者差別をなくす条例			5044-3	去年10月、千葉県で日本初の「障害者差別をなくすための条例」が成立し、今年の7月から施行された。条例ができるまでの過程は、う余曲折の連続だった。まず29人の市民が参加してたたき台を作ったが、何が差別か、どうすれば差別をなくせるかを巡って1年間の激論を交わした。県議会でも多くの反対にあい、何度も廃案の危機にさらされた。条例誕生までの過程と、施行から4か月の現状を見つめ、条例の意義を探る。
135	ハートをつなごう	NHK障害福祉賞1				5044-4	今年で42回目を迎えた「NHK障害福祉賞」。全国から寄せられた手記の中から、障害と向き合いながら前向きに生きる人たちの体験の記録や、障害のある人をサポートする人たちのすぐれた実践の記録に対して贈られる賞です。番組では、入賞作品の中から4作品の作者を取材。性同一性障害、発達障害、ひきこもり・・・これまで番組に出演したおなじみのゲストも登場し、障害を越えて、「ともに生きる」ことをテーマに語り合います。
136	ハートをつなごう	NHK障害福祉賞2				5044-5	
137	ハートをつなごう	NHK障害福祉賞3				5044-6	
138	ハートをつなごう	NHK障害福祉賞4				5044-7	

139	ビデオスケッチ未来の地図	手をつなぐ春				5045-1	恵子さんは18歳。この春、養護学校を卒業して、知的障害者の複合施設「ひまわりデイセンターふっくりあふウス」へ通いはじめました。がんばりやの恵子さんは、毎日お仕事とリハビリに一生懸命！片手でホッチキスの針をならべたり、バランスボールでリハビリをしています。今、モーニング娘に夢中で、家に帰るとパソコンでホームページを見たり、コンサートのDVDを見ている。3世代家族で大のおばあちゃん子。家族にはげまされ、恵子さんの新しい生活がはじまりました。
140	ビデオスケッチ未来の地図	愛の花さかそ！！				5045-2	愛花ちゃん、4人兄弟の末っ子で一番上のお兄ちゃんとは19歳離れています。お父さんは初めての女の子で、メロメロに可愛がっています。服はなんとお父さんがオークションで買っています。今は好奇心がいっぱいで動物に興味があったり、料理をしたりと、地域のみんなの支えがあって、元気いっぱい毎日過ごしています。
141	ビデオスケッチ未来の地図	だるまスマッシュ！				5045-3	勇希くんは現在、おとうさんが経営する居酒屋でランチタイムに働しながら卓球をがんばっています。高校時代には、全国障害者スポーツ大会の卓球競技で金メダルを2度とりました。リーダー的な存在で面倒見がよく、土日は友達と遊んだり卓球を教えたりしながら充実した日々を送っています。(
142	ビデオスケッチ未来の地図	力を合わせて！！				5045-4	飛磨くんは、養護学校に通う小学校2年生。お姉ちゃんの唯ちゃんと、弟の強磨くんの3人兄弟です。運動神経バツグンで活発な飛磨くんは、外遊びが大好き。でも、お母さんはまだ心配で目をはなせません。そんなお母さんの手助けをしてくれるのがお姉ちゃんと弟の二人。兄弟ゲンカもよくするけれど、みんなで力を合わせて笑顔いっぱいの毎日過ごしています。(
143	ビデオスケッチ未来の地図	好きやねん				5045-5	友行さんは、障害をもつ人たちが創作活動に打ち込むための施設「アトリエインカーブ」に通うアウトサイダー・アーティスト23人のなかの一人です。自他ともに認めるプロレスマニアであり、色鉛筆を使ってレスラーの表情や体の動きを独特のタッチで描きます。最近では畳1枚分の大きなサイズにも挑戦。その作品はニューヨークのギャラリーにも展示されるようになりました。ユーモアたっぷりの友行さんは、これから世界に大きく羽ばたこうとしています。

144	ビデオスケッチ未来の地図	金メダルの輝き			5045-6	杏奈さんは、東京国際学園高等部の声優・タレントコースに通う、歌とダンスが大好きな高校1年の女の子。学校ではアナウンスやナレーション、アテレコなどの実習もしています。今回は練習の成果を生かし、杏奈さんが学校の案内をしてくれました。そんな彼女が、もう一つ、得意とするのは器械体操。今年10月に上海で行われる「スペシャルオリンピック世界大会」の体操競技で日本代表に選ばれました。床、平均台、跳躍の3種目に出場予定ですが、平均台が苦手な本番に向けて猛特訓中。エンタティナーを目指して、杏奈さんは今、輝き始めています。
145	ビデオスケッチ未来の地図	社会人の一歩			5045-7	智貴さんは今年の春、八王子養護学校を卒業して「ゼビオスポーツ」の多摩境店に就職しました。こちらの店舗では障害者の雇用は初めてでしたが、スタッフのみんなが働く環境を整え、温かくサポートしてくれています。現在はスタッフ室に加えて店内の清掃も担当し、お客さんに「いらっしやいませ」と挨拶したり、簡単な応対もできるようになりました。職場でのニックネームは「キム」。仕事仲間の親睦会にも初めて参加して、ジュースを手にもみんなで「カンパ〜イ!」。社会人としての第一歩を踏み出した智貴さんは、充実した毎日を送っています。
146	ビデオスケッチ未来の地図	今年でスマイル7年目			5045-8	のんびりとして、やさしい性格の綾子さん。養護学校の先生に「就職は難しい」と言われましたが、どうしても働いてみたいと言う本人の希望と家族の思いから、インターネットで仕事先をさがし、「マクドナルド久喜駅前店」に就職することができました。通勤の足は自転車。今年7年目を迎え、毎日、楽しく働いています。そんな綾子さんの趣味はカラオケとミッキーグッズを集めること。休みの日には就労者を対象とした久喜市青年学級に参加したり、音楽クラブなどで余暇を満喫しています。
147	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	長時間介護の現場で		5046-1	障害者自立支援法が施行されて1年半あまり。この法律は、障害者の暮らしにどんな影響を与えているのか。現状を取材し、課題を探るシリーズ。 第1回は、長時間介護の現状を見つめる。進行した筋ジストロフィーなど重い身体障害をもつ人の中には、夜間の呼吸困難など不測の事態に対応するために、1日24時間のホームヘルプを希望する場合がある。しかしサービスの支給を決定する市町村では、財政上の理由などから、支給時間を抑えようとする傾向が強い。また、ホームヘルプ単価の引き下げに苦しむ事業所の現状からは制度の設計と実態のズレも浮かび上がる。自立支援法の今後の見直しに向けて、課題を探る。

148	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	ケアホームの暮らしは			5046-2	第2回は、知的障害や精神障害のある人たちが暮らす「ケアホーム」の実情について。自立支援法では施設で暮らす障害者のうち、数万人を地域のケアホームに移行する目標を示している。長野県にある知的障害者の施設では、法の成立前から、施設の障害者を地域の住まいに移行させてきた。法律ができたとき「自分たちのやってきたことが認められた」と喜んだが、実際に施行されてみると報酬単価が安く、必要なスタッフが確保できない現状に直面している。「施設から地域へ」という理念と実態とのかい離がなぜ生まれているのか。問題点を探り、見直しの方向性を探っていく。
149	福祉ネットワーク	検証・障害者自立支援法	徹底討論・現状と課題			5046-3	第3回は識者二人をスタジオに呼び、障害者自立支援法施行の現状と、法改正に向けての課題について語り合っていく。
150	福祉ネットワーク	リタリン問題と発達障害				5046-4	今年9月、向精神薬「リタリン」を不適切に処方していたとして東京都がクリニックに立ち入り調査を行った。それをきっかけにリタリンにまつわる依存や乱用の問題が次々と明らかになり、社会問題化。製薬会社と厚生労働省はリタリンの適応範囲を限定し、厳密な流通管理が行われることとなった。その一方で、リタリンによる治療を受けられなくなるという不安を訴える人たちがいる。ADHDなど発達障害の人たちとその家族だ。リタリンはADHDのおよそ7割に有効で、不注意や衝動性といった症状を緩和する。臨床現場では広く使われていた実態があり、世界的にも多くの国でADHDの薬として認められていたにもかかわらず、日本では未承認のままだった。そのため、リタリンの流通管理が厳しくなる中、発達障害の子どもや当事者が薬による治療を続けられるのか、不透明な状況となっている。最近のリタリンを巡る問題を通じて、発達障害の子どもに対する薬物治療の現状と、今後の課題を考える。
151	ハートをつなごう	発達障害の就労を考えよう	発達障害第8弾 就労編パート2			5047-1	今回も大人の発達障害について取り上げます。テーマは、前回大きな反響をいただいた「就労」。どうすればいい就職が実現できるか。就職した後経験する職場での失敗やトラブル。どう対処すれば、就労を継続し、能力を発揮することができるのか。具体的なケースをもとに語り合います。
152	ハートをつなごう	発達障害の就労を考えよう	発達障害第8弾 就労編パート2			5047-2	

153	福祉ネットワーク	NHKハート展	のびろのびろだ いすきな木			5048-1	障害のある人が作った詩に、著名人のアートが響きあうコラボレーション、「NHKハート展」。その作品がどのように生まれたのか、詩を作った障害者を訪ねて、その背景を探り、彼らの感性に触れるシリーズ。シンガーソングライターで、外科医でもあるアン・サリーさんは知的障害のある加藤勇喜さん(19)の詩「のびろのびろだ いすきな木」に曲をつけ、「みんなのうた」で放送した。詩を書いた加藤さんの暮らしぶりを訪ねながら、スタジオでアン・サリーさんにお話を伺う。
154	福祉ネットワーク	NHKハート展	オムライス			5048-2	三鷹市にすむ佐藤浩一さん(29歳)には知的障害があります。子どものころには周りについて行けず、自信を失っていました。しかし19歳の時、通所施設の施設長に勧められて詩を書くようになってから変わります。佐藤さんのストレートな表現は職員や同僚たちから評価され、その詩を元に曲を作るバンドも結成されました。10年にわたり毎朝書きつづった詩のノートは数十冊。「自分の思い通りに生きていいんだ、表現していいんだ」そんな思いを今の佐藤さんは抱いています。 その詩に絵をつけたのは世界的に活躍するパティシエの高木康政さん。詩から感じたやさしさ、暖かさをオムライスが飛び交うユーモラスな絵に仕上げました。 佐藤さんのあゆみをたどり、高木さんが絵に込めた思いをうかがいます。
155	ふるさと発	一緒に笑顔で いたいから	親子で向き合う 発達障害			5048-3	「ひいちゃんにつき」という、発達障害の子どもの日々を描いたホームページがネット上で静かな人気を呼んでいます。作者は、島根県浜田市の河上昌樹さん。息子の「ひいちゃん」こと光くんの成長を5年以上に渡って書き続けてきました。 発達障害に対する理解を深めてもらいたいという思いから昌樹さんはホームページを作りました。他にも、講演活動をするなどして、光くんが周囲の理解を得ながら生きていけるように奮闘しています。光くんは今、小学4年生。自分の障害と向き合い、自立の一步を踏み出し始めた光くんと、それを温かく見守る父親の姿を見つめます。
156	クローズアップ 現代	ヨーロッパから の新しい風④	教育で国の未来 を切り開け			5048-4	グローバル競争社会で通用する人材をどう育てるか。この課題に「教育」という戦略で立ち向かってきたのが、一足早く安定成長時代に突入したヨーロッパの国々だ。「2010年までにEUを世界で最もダイナミックで競争力のある“知識基盤経済”にする」という野心的なビジョンの元、各国が独自の教育改革を行ってきた。教育に競争原理を導入することで学力の向上を図り停滞する経済の立て直しを目指してきたイギリス。一方、北欧のフィンランドは情報通信などの新しい産業を担う人材を育成するため「考える力」を重視する教育を実践、OECD(経済協力開発機構)のPISA(学習到達度調査)で“学力世界一”と評されるようになった。次世代を担う子どもたちをどう育てるか、考えていく。

157	クローズアップ 現代	秘められた能力を引き出せ	～広がる知的障害者の雇用～			5049	<p>これまで障害者の中でも最も就労の難しかった知的障害者の雇用が、今急速に伸びている。この動きに弾みをつけたのは、去年11月、静岡で開かれた障害者の技能オリンピック「国際アビリンピック」での日本の知的障害者の大活躍だった。パソコン入力の技能を競う「データベース作成」部門で、日本勢が金・銀・銅を独占、健常者にも勝る能力の高さを証明した。パソコン入力だけでなく、接客や老人介護に優れた適性を示し、職域を広げる知的障害者。埋もれていた能力は、どう見出されてきたのか。企業は、知的障害者のどういう能力を評価し始めたのか。メダリストの働く企業を中心に、新たな動きを取材する。</p>
158	新日曜美術館	絶対唯一の表現	アウトサイダー アートの世界			5050	<p>今、世界的に注目を集めているアウトサイダーアートを特集する。屋根のかわらの一枚一枚、線路のまくら木の一本一本、木の葉の一枚一枚までが密に描かれた仮想の町の鳥観図。全身を1万本もの小さなトゲでびっしりと覆われている不思議な陶芸のいきもの。A4サイズの紙の全面を埋め尽くすのは、てん刻のように整った筆致で書かれた1ミリ四方にも満たない極微の漢字だ。どの作品も、思わず、「何だこれは?」「なぜここまで?」と見入ってしまわずにはいられない。作者は皆、正規の美術教育を受けたことがなく、知的障害や精神疾患などを抱える人びとだ。彼らの作品は、アウトサイダーアート、あるいはアール・ブリュット(生(なま)の芸術)と呼ばれる。その無垢な独創性や研ぎ澄まされた感性から、ヨーロッパでは、模倣とは無縁の「真の芸術」として注目されてきた。キーワードは、「孤独、秘密、沈黙」。誰にも知らせず、孤独のなか、自分で編み出した手法、自分が選んだ素材と題材で、密やかに作り続けられてきた。既成の美意識、社会的評価に惑わされることなく、描きたいから描き、作りたいから作る。そこにあるのは、表現することへの人間の根源的な欲求である。知られざる新たな芸術“アウトサイダーアート”の深遠な世界に分け入る。</p>

159	福祉ネットワーク	心に響け 太鼓のリズム				5051-1	この春、養護学校を卒業した知的障害のある若者が、プロの和太鼓奏者として一步を踏み出した。横浜市に住む友野龍士さん(19)。ユニークな人柄と豊かな表現力が高く評価され、太鼓のプロ奏者を抱え太鼓教室の開催や演奏道具の販売をおこなう会社に社員として採用された。入社して8か月、龍士さんは慣れない電車通勤や事務補助、スタジオ清掃などの仕事を覚えながら、プロ奏者としての修業をしている。さらにこの秋からは小学生の太鼓教室の講師に抜てきされた。しかし、指導役は生まれて初めて、とまどいの連続である。家族や会社の先輩たちに支えられながら活躍し始めた、友野龍士さんを追う。
160	きらっといきる	かかわることで広がる世界				5051-2	今年度、「きらっといきる」に登場した人は、およそ40人 心に残ったのは、人とのかかわり方を、一生懸命に模索する人たちの姿でした。総集編の第二回は、「かかわる」をテーマに、3組のみなさんをご紹介します。
161	こだわりヨーロッパ	企業経営で障害者自立の道を～ハンガリー ブダペスト～	息子の出産を機に、障害者が自立できる環境作りにかかるエルゼーベトさん。			5051-3	エルゼーベト・セカレシュさんが代表を務めるハンガリーの企業「同盟産業組合」は、従業員の9割が障害者である。設立のきっかけは、1976年、脳に障害のある息子ティボルさんの誕生だった。ティボルさんが大人になっても一人で生きていける場所が必要だと考え、小さな縫製下請け会社を始めたのである。現在、500人以上の障害者が働いている。障害者が自立できる環境作りに力を尽くすエルゼーベトさんを紹介する。
162	福祉ネットワーク	かあさん弾けたよ	障害者ピアノコンクール	ある親子の挑戦		5052	番組の主人公は、知的障害がある27才の女性・羽田香織さんとその母親・美雪さん。小さい時から運動も勉強もいつもビリ。“自分には何も出来ない”と思いこみ、家に閉じこもりがちな生活を送ってきた香織さん。そんな我が子を認めてあげられず、“恥ずかしい”とすら思っていた母親の美雪さん。二人は、障害者のピアノコンクールを目指し、奮闘する中で少しずつ、変わっていく。コンクールが終わった後、二人が手に入れたものは…？

163	福祉ネットワーク	『かりいほ』の 日々	知的障害者の社会復帰を支えて			5053-1	障害を理解してもらえず、いじめにあう。周りとトラブルを起こして居場所を失う。多額の借金を背負わされて自己破産してしまう…。そうしたさまざまな困難を抱えて社会で暮らすことのできなくなった知的障害者を専門に受け入れて、もう一度社会で暮らすことを支援する施設がある。仮のいおりを意味する「かりいほ」。30年の歴史でのべ180人を受け入れてきた。どんな事情でここに来るのか。どのように支援し、再出発へ送り出すのか。全国でもまれな「かりいほ」の取り組みを見つめる。
164	きらっといきる	障害がわかって前向きになった	アスペルガー症候群・近藤己順さん			5053-2	人と同じようにふるまえないことに、悩み続けてきた女性があります。大阪府に住む、近藤己順さん。物事への対応の仕方や気持ちの伝え方が、ほかの人とはちょっと変わっているのです。一生懸命やるのですが、周りの人とぎくしゃくしてしまいます。でも、なぜ、自分だけがそうになってしまうのか、ずっとわかりませんでした。転機が訪れたのは、22歳の時です。ある障害について書かれたホームページ。症状のほとんどが、自分にあてはまったのです。近藤さんは病院へ向かいます。そして、アスペルガー症候群の診断を受けました。アスペルガー症候群は、発達障害の中のひとつです。人によって症状は様々ですが、大きな特徴として、人とコミュニケーションをうまくとるのが難しい、特定のものにこだわるという特徴があります。また、アスペルガー症候群は、診断の基準やその解釈に幅があり、近藤さんのような場合を広汎性発達障害と診断することもあります。
165	ハイビジョン特集	手のひらサイズのニッポン	源じいの、桜の谷～広島県尾道市			5054-1	規模の小さな共同体で日本の暮らしを見つめなおすシリーズ。広島県尾道の山間に暮らす源田さんは4人の孫と「春探し」。近隣の田んぼを預かり耕し集落を維持するのに懸命。規模の小さな共同体の日常生活を長期間撮影し、日本の暮らしを見つめなおすシリーズ。今回は広島県の山間部「上小山田」の谷が舞台。ここは、集落の維持が困難になる「限界集落」だ。孫と暮らしながら“春を探す”源田さんは、会社を退いて谷に戻った。次々と放棄される田んぼに心を痛め、ほかの家の田も預かって耕している。集落の人が互いに語らう場を、と願う丘に桜の木を植えた。谷を出た若者らの心に戻したい、と願っている。
166	福祉ネットワーク	この人と福祉を語ろうしあわせをデザインする	アトリエ・インカーブ 今中博之さん			5054-2	障害のあるアーティストが創作活動を行うための福祉施設「アトリエインカーブ」を率いる今中博之さん(45)。ユニークな魅力をもつ作品を社会に発信してアーティストたちの経済的独立を目指すと同時に、従来の福祉分野とは異なる専門家が福祉に取り組むことの可能性を模索し続けている。アトリエインカーブの活動を通して「社会をデザインしたい」と語る今中さんに、その展望と挑戦について話をうかがう。
167	福祉ネットワーク	僕と福祉とファンキービート	和太鼓奏者・片岡亮太			5054-3	和太鼓奏者・片岡亮太さん23歳。全盲という障害がありながら、昨年、上智大学社会福祉学科を首席で卒業し、社会福祉士の資格ももつ異色のプロ太鼓奏者だ。ステージでは演奏だけでなく、みずからの体験に基づいた「福祉トーク」も人気で、活動を初めて1年あまりで80回以上の公演をこなしてきた。福祉の専門家になる道を離れ、自分にしかできない音楽をめざして歩む、片岡さんの挑戦を見つめる。

168	福祉の未来を考 えるハートネット TV	第三夜 CHA NGING 変え る人 デザイ ナー 牧 文彦	障害のある人の 仕事を作り出す			5055-1	<p>新たな価値観を持って時代を変革し、社会を動かしていこうとする“現代のキーマン”がさまざまな分野で生まれ始めている。大阪で活躍するデザイナーの牧文彦(44)さんは、才能ある若手デザイナーと、丁寧な作業を得意とする作業所で働く障害者、そして環境問題の解決を結びつけるプロジェクトを立ち上げ、循環型包装マスコット「OKURIN」をプロデュース。この仕事で、グッドデザイン賞アワード2007で上位入賞を果たし、この秋パリで開かれる展覧会にも、日本を代表するプロダクトとして出品されることも決まっている。商品化にはなじまないとされた「ECO」や「気持ち」をデザインに昇華し、障害者雇用や若手育成など一石二鳥にも三鳥にも結びつけるチェンジメーカー・牧文彦さんの手法をドキュメント。スタジオで女優・大塚寧々さんがその意味を語る。</p>
169	福祉ネットワー ク	刑務所に戻り たかった	罪を犯した知的 障害者の社会復 帰			5055-2	<p>年間およそ3万人の新規受刑者のうち、2割強に当たる7000人は知的障害がある可能性が高い。そんな深刻な現実が、法務省の調査から明らかになってきた。事態を重くみた厚生労働省は、昨年初めて詳細な調査を行った。そこで明らかになったのは、知的障害があるにもかかわらず、多くの人が障害者手帳を取得しておらず、障害者福祉のセーフティーネットからこぼれ落ちているという現実。そのために窃盗などの犯罪を繰り返しながら生きのびてきた人たちの姿だった。中には住む場所も支えてくれる人もいないために、刑務所に入ることを目的に犯罪を犯す人もいた。「外では誰も相手にしてくれない。ここ(刑務所)が一番いい」法を犯した障害者をどうやって更正させ、再犯を防ぎながら社会復帰させていくのか。国はようやく具体的な支援の方法を探り始めたが、その道のりはまだまだ遠い。一方で民間団体の中には、独自にこうした「触法」障害者を支援する動きも始まっている。番組では国の調査からわかってきた現状を解説し、「触法」障害者の社会復帰を支えようとする取り組みをレポートしながら、今後の課題について考えていく。</p>
170	土よう親じかん	クラスメートは 「発達障害」				5056-1	<p>番組ホームページの「書きこみ板」には発達障害の子どもを持つ親御さんたちから学校生活への不安や不満が次々と寄せられています。「コーディネーター担当の先生が無関心」「校長先生に理解がない」。特別支援教育が始まって1年。学校の先生やまわりの友達とお互いどのように理解を深めあっていくのか、考えました。</p>

171	ETV特集	手の言葉で生きる			5056-2	<p>「私たちは“聴覚障害者”ではありません。“手話を使う人”です」「手話」がどのような言語であり、「手話を使って生きる」ことがどのようなことなのか、私たちは本当に知っているだろうか。じつは「ろう者」の人たちがネイティブに使う独自の手話は、「日本語」の文法とは異なった言語なのである。神奈川県立平塚ろう学校、小学2年生の教室。小さな手をひらひらとさせて、5人の子どもたちが日本語の勉強をしている。幼いころから耳の聞こえない「ろう者」独自の手話で生きてきた子どもたちが、初めて日本語を習う教室である。カルタをとってひらがなを覚え、手話にはない「て・に・を・は」が分からず困惑する子どもたち。自身もろう者の加藤小夜里(さより)先生は、一つ一つ身振りと豊かな表情で子どもたちを導いてゆく。日本のろう学校小学部で行われてきた「ろう教育」は、かつて手話を使うことを禁じ、「口話(口の形と発声を覚えさせる)」を行って「正しい日本語」を教えることを追求してきた長い歴史がある。ろう学校の教育内容が変化し、手話が使われ始めたのは最近のことで、まだ限定的であり、多くは日本語の語順に対応させた手話である。番組では、加藤先生の教室で学ぶ子どもたちの半年間の姿を追った。ろう者同士が豊かにコミュニケーションする「手話」と、日本社会で読み書きし生活するために必要な「日本語」、二つの言語と格闘する子どもたちをドキュメントする。日本社会が手話をどう位置づけてきたのか、「手話」という言語を使う人たちと、私達がどのような社会を築いてゆくのかを考えたい。</p>
172	働く喜び輝く仲間たち	障害に負けない心			5057-1	ベネッセ、山陽マルナカ、国立リハビリテーションなどでの就労訓練や実際の就労の状況を放映
173	きらっといきる	エイサー夏物語～知的障害・知花未来世さん～			5057-2	沖縄県読谷村に住む知花未来世さん(22歳)。知的障害で、ほとんど話すことはできないが、人なつこい笑顔で単語を連発し、なんとか自分の気持ちを伝えようとする。そんな知花さんの表情が一番輝くのは、夏。沖縄の夏の風物詩、エイサーがあるからだ。地元の若者たちに交じって練習する彼女を自然に受け入れ、あたたかく見守るおらかな沖縄の人たち。知的障害のある人が地域で生きていく意味をあらためて見つめる。
174	福祉ネットワーク	シリーズ 障害者の就労1	”就労移行支援事業”は今		5058-1	障害者自立支援法施行から2年。「福祉から就労へ」という自立支援法の理念を体現する新しい事業として注目を集めた「就労移行支援事業」が、最初の利用期限を迎えようとしている。この事業は企業などへの一般就労を目的に、必要な訓練や就職支援を行うというもの。働きたい障害者が、2年を限度にこの事業を利用し、企業に就職することを想定している。「就労移行支援事業」は、これまで少なかった福祉施設から企業への就職の道を開いた。しかし同時に、多くの福祉施設では、具体的な支援のノウハウや関係機関とのネットワークをもたないままスタートを切り、結果を出すことができずに苦悩している。「障害者の就労」を考える2回シリーズ、1回目は自立支援法によって生まれた「就労移行支援事業」の現状を伝え、どのような課題があるのか検証する。

175	福祉ネットワーク	シリーズ 障害者の就労2	働き続けるしくみをつくる			5058-2	働くことを希望する障害者が、せっかく就職しても、すぐに離職してしまうことが問題となっている。職場の人間関係がうまくいかない、仕事にうまくじめない…。どうすれば障害者にとっても、企業にとってもメリットのある働き方ができ、長期間の就労を実現できるのか？シリーズ2回目のテーマは「働き続けるしくみをつくる」、障害者がグループになって役割分担しながら工場で働く例や、複数の企業が共同でNPOをつくり、障害者の就労・定着支援を行う新しい取り組みなどを紹介。障害のある人が安心して働き続けるために必要な支援について考える。
176	こだわりヨーロッパ	ヨーグルト工場から自立への一歩を	スペイン オロット			5058-3	スペインのカタルーニャ。美味しさが評判のヨーグルト工場、実は200人の従業員の半数以上が精神障害や知的障害のある人たちだ。経営者のクリストバル・コロンさんは、高校時代、精神病院でのアルバイトがきっかけで「障害者も仕事をして正当な報酬を得ることで社会復帰を」と、会社を立ち上げた。が、最初は簡単にはいかなかった。25年間、工芸品や園芸用品など様々な業種に挑戦し、倒産を繰り返した。しかし失敗から学んだことも大きかった。クリストバルさんは障害のある人たちの能力を生かせる仕事があるはずだと気づいたのだ。ヨーグルト工場を始めたところ、森の中という自然環境がプラスになったのか見事に軌道に乗った。今ではケア・スタッフが常駐し一人ひとりの病状を把握している。自立した施設として注目を集め、ヨーロッパ中から視察がひきもきらない。「社会に対して胸を張って生きてほしい」というクリストバルさんの活動を紹介する。
177	ハートをつなごう	NHK障害福祉賞(3)				5059-1	2008年で43回を迎える「NHK障害福祉賞」。入選した3人の日常生活をみつめながら、作品に込めた思いを聞く。最終回は、知的障害者施設に暮らす60代の男性が、少年のころ自宅で母親や友人に教わった文字を使って作成した人生史をひもといていく。
178	ニューヨーク街物語	ようこそ”理想の学校”へ				5060-1	ニューヨークで3年前に創立した小さな学校が注目を集めている。ダウン症の子供や、経済的に恵まれない子供などが、ひとつの教室で学ぶ「アイディアル・スクール」、理想の学校である。現在の生徒数は、およそ70人。人種の多様性なども合わせて、社会の縮図をそのまま、教室に反映させようというのが、アイディアル・スクールの基本コンセプトである。ユニークな教育環境で生き生きと学ぶ子供たちの日々を追った。
179	ふるさと発スペシ	ふるさとから、あなたへ「棚田の谷に春が来て」				5061-1	「棚田の谷に春が来て～広島県尾道市 上小山田地区～」▽田を守るじいちゃん10人の家族・孫の成長 ▽希望の桜【語り】芳野潔 「人が減っても、年に一度ぐらいは皆で集まり、語り合いたい」。そんな思いが込められた花見が毎年催されている。尾道市北部の山間、19戸が暮らす上小山田集落。計画したのは源田敏雄さん。集落から人が減り続ける中、生まれ育った集落で「豊かに」生きることを大事にする敏雄さん。そんな姿を見ながら、のびのび育つ四人の孫たち。小さな集落の一家の暮らしを追ひ、前向きに生きる敏雄さんや家族の姿をみつめる。
180	きらっといきる	”のんき”がええけえ	～ダウン症・毛利愛さん、石田淳也さん～			5062-1	”のんき”ができた訳は、少し変わっています。もともとは、ポストカードを作る作業所でした。養護学校などを卒業したあとの居場所として親たちが中心となって作りました。しかし、カード作りは、基本的には黙々と同じ作業を繰り返すだけ。毎日それほど売れるわけではありません。次第にみんなは、作業所から足が遠のいていったといえます。働いたという、手応えを感じられる仕事はなんだろう。知恵を絞った結果が、お好み焼き屋でした。焼き上がるまでに、たくさんの工程があり、達成感が味わえること、そして、お客さんの反応がすぐに帰ってくるからです。

181	命あるかぎり、精一杯生きる				5063-1	大きなハンディキャップを乗り越え、世間とのコミュニケーションをとろうとする、3人の精一杯の生き様を通して、勇気と絆の大切さを問う。どんな状態にあっても人は思いを人に伝えたい…自閉症の少年、東田直樹君が言葉の世界を体得したことで、表現される彼の内なる思い。額の筋肉だけでパソコンを操作して短歌や詩作、その上講演を行うALS患者、船後靖彦さん。自ら障害を持ちながらも、海の無重力を使うことで障害者も自由な世界を味わえることを伝えるダイビングインストラクター椎名勝己さん。この3人の生き様を追いかけてみます。
182	福祉ネットワーク	シリーズ 子どもたちを支えるために(2)	“ふれジョブ”で地域をつなぐ		5064-1	岡山県倉敷市で、知的障害や発達障害のある小・中・高校生が地域の企業で仕事体験をする「ふれジョブ」という活動が行われている。約10年をかけてさまざまな職場を体験し“お手伝い”の感覚から、就労意識の自覚に結びつけようという取り組みだ。この活動は、単に就労だけでなく障害のある子どもと地域のつながりも変えてきた。「ふれジョブ」の活動を紹介しながら、障害のある子どもを支える「地域の力」について考える。
183	クローズアップ現代	才能を開花させよ	どう支える発達障害児		5065-1	人とのコミュニケーションがうまくとれず、周りの状況にあわせた行動が苦手な高機能自閉症やアスペルガー症候群。知的な発達に問題ないのに読み書きや計算など、特定の学習だけが極端に苦手な学習障害(LD)。落ち着いて物事に集中することができない注意欠陥多動性障害(ADHD)。これらの知的に遅れない「発達障害児」は、文部科学省の調査によると、通常学級に在籍する小中学生の約6%にのぼると言われ、いじめの対象になることもあり対策が急がれていた。国は、昨年度から全ての小中学校で発達障害児を支援する学習・生活指導を行うことを定めたが、専門家不足や教師への研修体制などが整わず、全国で模索と混乱が続いている。得意分野では極めて優れた能力を発揮する発達障害の子供達の教育はどうあるべきか？30年以上前から取り組むイギリスでは、社会人になるまで一貫した長所を伸ばす教育で、研究者や芸術家として成功する例が少なくない。発達障害の子供達を社会で活躍させるにはどうすればいいか考えてみる。
184	ハートをつなごう	発達障害 友達・その後			5065-2	1日目のテーマは「友だち」。「どうすれば、ともだちができるのか?」「どうすれば人とうまくつきあえるのか?」去年4月、発達障害のある中学生二人が自分たちだけの力で旅に挑戦。その様子に加え、それぞれ一回り大きく成長した二人のその後の様子も織り交ぜお届けします。
185	ハートをつなごう	発達障害 結婚・その後			5065-3	2日目のテーマは「結婚」。発達障害のパートナーとの暮らしを語り合います。番組の常連・笹森理絵さんの夫、史郎さんからのメールをきっかけに8月にお届けした番組には大きな反響が寄せられました。笹森家のその後の様子も交えながら、発達障害のあるパートナーとの結婚生活を楽しく乗り切るにはどうすればいいか考えます。
186	福祉ネットワーク	シリーズ 罪を犯した知的障害者と向き合う(1)			5066-1	:知的障害があるにもかかわらず、本人も周囲もそのことに気づかず、何の支援も受けられないまま生活苦に陥り、窃盗などの犯罪を繰り返す…。こうした人たちが少なくないことが、最近分かってきた。刑務所の中でもこうした人たちに対してどのように処遇すればよいのか、どうすればよく罪と再犯防止につながるのか、とまどいが広がっている。そんな中、知的障害のある受刑者を集め、社会生活に適応するためのプログラムを集中的に行う取り組みも、一部の刑務所で始まりました。刑務所の中の現実を見つめながら、なぜ知的障害者が犯罪へと追い込まれるのか、その悪循環を断ち切るために何が必要かを考える。

187	福祉ネットワーク	シリーズ 罪を犯した知的障害者と向き合う(2)			5066-2	知的障害があるにもかかわらず、適切な支援を受けられず、さまざまな困難を抱える中で罪を犯してしまった人たちとどう向き合うか、現状と課題を探るシリーズの2回目。 兵庫県のある相談支援事業者は、弁護士や家族会などと連携しながら、罪を犯した知的障害者の支援を始めている。取り組みの一つは起訴された障害者が、どのような生い立ちの中で、どのような経緯で犯罪を犯してしまったのか、独自の調査でその背景を明らかにし、適切な裁判が受けられるようにすること。そしてもう一つは、判決を受けた後も継続的に支援し、再犯をせずに社会生活が送れるようにすることである。この取り組みを通じて、罪を犯した知的障害者のしよく罪と社会復帰のために必要なことは何か、考えていく。
188	福祉ネットワーク	翔子24歳 -書道がくれた希望-			5067-1	金澤翔子さんは24歳、書道界注目の若手書家でダウン症の障害がある。翔子さんは、抽象的な概念を理解することが苦手で、書家の母親とともに試行錯誤を繰り返しながら練習し、次第に周囲から高い評価を得るようになった。翔子さんは今、来年の個展に向けて、厳しい練習の日々をスタートさせている。独自の世界を深めようと挑んできた親子の絆(きずな)と、翔子さんの新たな挑戦の日々を伝える。
189	福祉ネットワーク	子どもサポートネット シリーズ「うちの子どもは世界一!」(1)	みんなに言いたい“ありがとう”-豊田貴也くん-		5067-2	障害と向き合いながら、自分の夢に向けて一歩一歩、歩み続ける子どもたちがいます。子どもサポートネットの「夏休み企画」。夢にかける子どもたちの思いを伝えます。東京都に暮らす高校生、豊田貴也(とよだ・たかや)君。人とのコミュニケーションが苦手な、「広汎性発達障害」という障害があります。豊田くんは、中学時代クラスメイトとなじみず不登校になってしまった経験もありますが、母親や学校の先生、クラスメイトに支えられ不登校を脱出、高校へ進学することができました。将来の夢は、ゲームの制作者。その夢をかなえるために、今、アルバイトで進学のためのお金を貯めています。豊田くんの、成長の軌跡を伝えます。
190	福祉ネットワーク	子どもサポートネット シリーズ「うちの子どもは世界一!」(2)	ぼくの“ソナタ”-小縣一正くん-		5067-3	2回目の主人公は、神戸市に暮らす中学一年生、小縣一正(おがた・かずまさ)くん。右手に障害がある小縣くんは、2歳の時からピアノを続けています。今年10月には、夢がかなってカナダ・バンクーバーで開かれる国際障害者ピアノフェスティバルに出場が決まりました。今、バンクーバーのステージで最高の演奏をすることを目指して、練習に励んでいます。小縣くんの成長の軌跡を伝えます。※東京・江戸川区立南葛西第二中学校で公開収録
191	福祉ネットワーク	「“障害者虐待”を防ぐ」			5068-1	企業や施設において、障害者が虐待される事件があつと絶たない。こうした虐待を防ぐために、厚労省などでは1990年代からいくつかの対策を打ちだしてきたが、ほとんど機能してこなかった。どうすれば障害者虐待を防ぐことができるのか? 奈良県で起きたある事件を振り返りながら、虐待の実態や虐待が起こる背景、そして防止のための課題を考えていく。
192	福祉ネットワーク	信じあう心 ひびきあう夢~中国障害者芸術団 清水寺公演~			5068-2	2009年8月27日夜、世界遺産に指定されている京都・清水寺の舞台上、中国障害者芸術団による、奉納公演が行われた。その中でももっとも有名な演目が「千手観音」。聴覚に障害のある21人が、音楽にあわせて一糸乱れぬ踊りを演じる神秘的なパフォーマンスである。なぜこうした演技が可能なのか? 番組では、中国障害者芸術団のそのほかのパフォーマンスも含めて、その魅力を紹介する。

193	ルビコンの決断	あなたはなぜ働くのですか？	日本一優しい会社が問い続けた50年		5069-1	このところの不況で、給料もあがらず、業績もあがらず、「一体なんのために働いているのか」と悩んでいる人も多いという。そうした中、従業員約70人のほとんどが仕事にやりがいを持ち、働く喜びを感じている企業がある。神奈川県川崎市にあるチョコレートメーカーでトップの、日本理化学工業だ。日本で始めて「粉の出ないチョコレート」を開発し、今では「ガラスに書けるチョコレート」というヒット商品までうんでいる。この会社は、ほとんど途中でやめる社員はいない。50年前に就職した65歳の女性は今もなお働き、勤続50年、ほとんど無遅刻・無欠席で、「仕事が楽しい。まだ働きたい」と笑顔で答える。実はこの会社、従業員の70%以上が知的障害を持っているという。どうしてこのような奇跡の会社が生まれたのか？それは50年前に2人の知的障害を持つ少女が就職を希望して現れたことがきっかけだった…。会社の経営と障害者の雇用、従業員の不満と経営者の苦悩、様々な困難を乗り越え実現した、奇跡の会社の50年間の感動のドラマを描いていく。
194	福祉ネットワーク	海を越える僕らのビート			5069-2	知的障害のある友野龍士さん(20)と、視覚障害のある片岡亮太さん(25)。「福祉ネットワーク」でもこれまでご紹介した2人の若手プロ和太鼓奏者が、この秋、仲間たちと海を渡り、アメリカ・ニューヨーク州で武者修行に挑んだ。彼らのパワフルな音楽と生き方はアメリカの人々にどう映るのか。初めての海外経験を通して彼らが何を得るのかをお伝えする。
195	きらっといきる	ぶどう作りってむずかしい	知的障害・「ピア名古屋」メンバー		5069-3	今回の主人公は、知的障害者のための授産施設「ピア名古屋」のメンバーたちです。「ピア名古屋」では、ワイン用のぶどう栽培に取り組んでいます。苗の植え付けから収穫まで、自分たちで行います。育てたぶどうからできたワインの売り上げで生活することが目標です。メンバーは14人。20代から30代の若者が中心です。月曜日から金曜日の、朝10時半から午後3時頃まで、畑で作業をしています。
196	福祉ネットワーク	海を越える僕らのビート			5069-4	知的障害のある友野龍士さん(20)と、視覚障害のある片岡亮太さん(25)。「福祉ネットワーク」でもこれまでご紹介した2人の若手プロ和太鼓奏者が、この秋、仲間たちと海を渡り、アメリカ・ニューヨーク州で武者修行に挑んだ。彼らのパワフルな音楽と生き方はアメリカの人々にどう映るのか。初めての海外経験を通して彼らが何を得るのかをお伝えする。
197	福祉ネットワーク	誰ひとり見捨てない(2)	千葉 中核地域生活支援センター		5069-5	借金、障害、病気など、複数の問題が絡み合った「多重困難」に苦しむ家族たちを支援する、千葉県の「中核地域生活支援センター」。今、障害者や虐待を受けている人たちに加えて、「一般の市民」からの相談が増えている。老いや病など、誰の人生にも起こりうる出来事がきっかけで、なぜ、こんなに多くの家族が多重困難に陥ってしまうのか？なぜ、そこから抜け出すことが難しいのか？中核支援センターの活動を見つめる。
198	はじめてみませんか！地域の暮らし	ひとりじゃないよ	大阪府制作		5070-1	グループホームやケアホームへの移行を、本人を中心にどのように進めていけばよいのか、具体的な事例を示しています。

199	クローズアップ 現代	失われた力を 呼び覚ませ “共生型介護”				5071-1	一人で立てなかった高齢者が幼児の手を引いて階段を登った。家事をしなくなった80代女性が身体障害者の食事介助を始めた。今、高齢者の失われた力を呼び戻すとして注目を集めているのが、高齢者、子ども、障害者などを幅広く受け入れて一緒にケアする“共生型介護”だ。既存の施設ではサービスの受け手でしかなかった高齢者が「子どもの世話」、「障害者の介助」など「役割」を得ることが、驚異の回復の鍵だとみられている。しかし、これまで高齢者や障害者を別々にケアしてきた国や多くの自治体では、“共生型”は積極的には支援していない。縦割り行政の壁を前に、開設を断念するケースも少なくないという。“共生型介護”は広がるのか、その可能性と課題を探る。
200	福祉ネットワー ク	シリーズ社会起 業家の挑戦(2) 障害者の自立応 援します				5072-1	大阪に住む河内崇典さん(33才)が学生たちとともに立ち上げたのは、障害者の暮らしを支える事業。家事援助を初め、働く場所を斡旋(あっせん)する就労支援など、障害者が自立して暮らすためのさまざまなサポートを行っている。学生時代に入浴介助のアルバイトで福祉の現場に出会った河内さんは、十分なサポートがないために自立して暮らしたくても暮らせない障害者の実態を目の当たりにした。そこでNPO法人「み・らいず」を設立。「障害があっても当たり前暮らしが出来る社会」を目指している。河内さんたちの強みは100人を超える学生たち。介助サービスの人手がなかなか集まらない夜間帯も学生の手でサポートを行ったり、余暇(よか)の充実のためのイベントを企画するなど、障害者の暮らしを支えている。さらに、河内さんたちは障害者の才能や特性をひきだし、その特性をいかして働ける環境づくりに取り組み始めた。障害者の暮らしを変えていこうとする河内さんたちの思いに迫る。